

テンパス

2016年（平成28年）59号



感田神社濠（貝塚寺内町環濠跡）

平成27年3月6日付で貝塚市の文化財（史跡）に指定しました。

も く じ

貝塚寺内町地域にのこる環濠跡

孝恩寺の仏像

水間街道沿いの道しるべ その2

古文書をひも解く

古文書講座

貝塚市歴史展示館に行ってみませんか

文化財カレンダー



貝塚寺内町地域にのこる環濠跡

貝塚寺内町は、室町時代末期、現在の願泉寺（がんせんじ）を中心にできた町です。町は現在の南海本線貝塚駅の北西側に広がり、貝塚市北町、近木町（こぎちょう）、中、西町、南町がおおよそその範囲にあたります。戦国時代を中心に造られた寺内町は、外敵から町を守るための防御的な構造物が築されましたが、その一つが町の周りをめぐる環濠です。北西部が大阪湾にひらけた貝塚では、北東部と南西部は自然の河川が濠（ほり）の役割を果たし、南東部には人工的に造られた濠が築されました。今回のテンプスでは、現在直接みることができる唯一の遺構である感田神社境内に残る濠、そして濠の役割を果たした北境川と清水川の現状を紹介します。

貝塚市指定文化財 史跡

感田神社濠（貝塚寺内町環濠跡）

感田神社は、古くから貝塚寺内町の産土神（うぶすながみ、土地の守り神）として町の南東端にまつられてきた神社です。感田（大）明神とよばれた江戸時代の感田神社は四方を濠で囲まれた島状の形をしており、願泉寺などにのこる当時の絵図類にもその状況を見ることができます（下図参照）。

この境内を囲む濠は、近代以降も海側（北西側）を除く三方が残されていましたが、現在は境内に取り込まれた大阪側（北東側）のみが残っています。

貝塚市教育委員会では、この北東側の濠が貝塚寺内町の環濠の面影を残す唯一の遺構であることから、平成27年3月6日付で、史跡「感田神社濠（貝塚寺内町環濠跡）」として市の文化財に指定しました。感田神社濠は、両岸の石垣の積み方が異なるのが特徴で、大阪側は谷積みという近代の積み方、和歌山側（南西側）は布積みという江戸時代の積み方をしています。





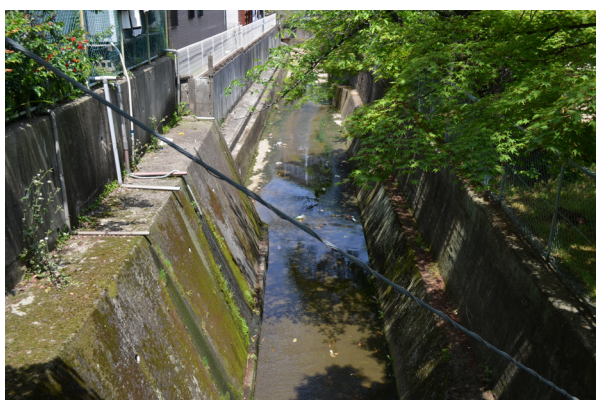
①感田神社濠の石垣 大阪側の谷積み



②感田神社濠の石垣 和歌山側の布積み

北境川

北境川は、寺内町の北東（大阪）側を流れる自然河川です。現在はコンクリートの三面張りの構造で、部分的にはさらに細い溝を築かれ、そこに小さな流れを作っています。



③北境川 堀公園横から下流をのぞむ



④北境川 堀並橋から下流をのぞむ

清水川

清水川は、寺内町の南西（和歌山）側を流れる自然河川です。現在、ほとんどの場所で暗渠（あんきょ）になっています。府道 204 号堺阪南線（旧国道 26 号）より海側では、北境川と同じく、コンクリートの三面張りの中に、場所によりさらに細い溝が築かれ、そこに小さな流れを作っているのをところどころ目にすることができます。



⑤清水川 府道 204 号堺阪南線海側から上流をのぞむ



⑥清水川 旧紀州街道海側から下流をのぞむ

以上のように、貝塚寺内町地域に残る環濠跡として、市指定文化財である史跡「感田神社濠（貝塚寺内町環濠跡）」と、濠の役割を果たした北境川、清水川の 2 つの河川を紹介しました。貝塚寺内町をめぐる環濠の全体像は未だ明らかではありませんが、過去におこなった発掘調査では環濠跡と思われる遺構も発見されています。今後も、新たな発見があった場合には、お知らせしていく予定です。

孝恩寺の仏像 - ぼさつ 菩薩④ ふげんぼさつ 普賢菩薩 -

木積（こつみ）の孝恩寺には、平安時代制作の 19 軀（く）の仏像が安置され、うち 18 軀が重要文化財に指定されています。前回テンプス 54 号につづき、今回は、その中から普賢菩薩立像を紹介します。

【重要文化財】木造普賢菩薩立像 1 軀

時 代 平安時代後期（10 世紀）

像 高 167.5 cm

指定年月日 1913（大正 2）年 4 月 14 日

普賢菩薩は、釈迦如来の脇侍（きょうじ）として、文殊菩薩とともに三尊としてまつられることが多い仏です。本像は、甲冑（かっちゅう）や沓（くつ）を身につけていることから、本来は天部（仏教を守る神々）像として制作されたものと考えられますが、現在は蓮華座（れんげざ）を乗せた象の上に立つ普賢菩薩の姿をしています。大部分をカヤの一材で彫り出した一木造の像で、表面には白土下地の上に彩色をほどこしています。等身大に作られた端正な姿や小作りの穏やかな顔つきなどの特徴から、制作年代は 10 世紀頃と考えられています。



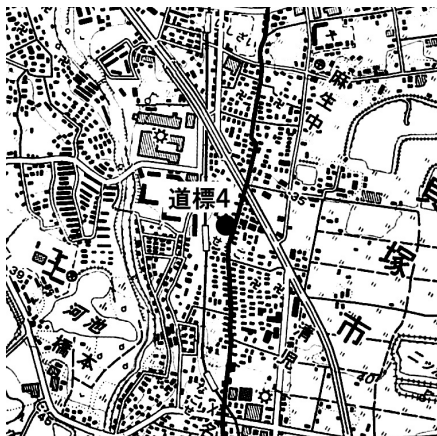
水間街道沿いの道しるべ その 2

水間街道は厄除けの「水間観音」として有名な水間寺への参詣道です。テンプス 58 号では、西町から水間まで続く街道のうち、海塚から麻生中までの間にのこる 5 基を紹介しましたが、今号では清兎（せちご）にのこる 1 基を紹介します。

水間街道道標 4（清兎）

清兎を通る水間街道沿いの三叉路の一角にある小堂内にまつられている道しるべで、岸和田と貝塚、橋本にある清水大師（しみずだいし）への方向を示したものです。正面に地藏立像を浮き彫りにし、その左右には「右 岸かいつか」、「左 はし本大し」と刻まれています。

清水大師は、橋本にある弘法大師空海をまつる大師堂です。江戸時代から近代にかけては、千石堀城跡にあった三ノ丞山大師（さんのじょうやまだいし）とともに、市域の大師堂の一つとして参詣者で賑わったことが知られています。



古文書をひも解く

◆ぼっかんさんの江戸参府記～序章

江戸時代の貝塚寺内願泉寺ト半（ぼくはん）氏は、宗教的には浄土真宗の東・西の本願寺の下にある願泉寺の住職であり、政治的には2代了閑の時、徳川家康から寺内町の「地頭」（＝領主）としての地位を認められました。また、4代了周が遠縁にあたる日光輪王寺宮門跡公海（にっこうりんのうじのみやもんぜきこうかい）に天台宗の東叡山寛永寺で剃髪得度（ていはつとくど）を受け、



安政5年（1858年）の江戸参府記（13代将軍徳川家定が亡くなった際の記録）「真教院」の院号を与えられ、以後代々に受け継がれました。徳川家康がまつられる日光東照宮、そして歴代将軍の菩提寺である東叡山寛永寺との結びつきから、幕府との関係はより強固なものとなりました。

こうした位置づけから、ト半氏は将軍の代替わりの際には「地頭」を認めてもらう朱印状を受け取るため江戸へ出向きました。また、将軍が亡くなった場合にも江戸へ出向き、浄土三部経を納めました。これら江戸へ出向いた際に作成された記録が「参府記」と呼ばれています。内容は、代替わりや亡くなったことのお触れが、まず江戸からもたらされることに始まります。その後、幕府の寺社奉行や寛永寺の家来衆からの手紙で、朱印状の受け取りあるいは納経の段取りなどが伝えられます。そして道中の日記が続きます。行列の並び方、さまざまな人が挨拶に訪れている様子など事細かく記されています。江戸へ向かう道中には、太平洋側に沿った東海道と山中を進む中山道の大きく2つのコースがあり、季節や天候に応じて選択されているようです。なお、江戸滞在中も日記は続き、寛永寺本堂や江戸城内とその時拝謁する場所などを示した見取り図もついています。最後には、帰りの道中とともに、江戸から持ち帰った土産物まで書き上げています。

詳細については、6月からの古文書講座で取り上げていきます。

古文書を読む会

平成27年度より月2回程度のペースで、参加者が交代で古文書を解読し発表し合う「古文書を読む会」をおこなっています。身近な地域の歴史について、みなさん予習・復習に時間を掛けて熱心に取り組み、議論を深めています。



古文書を読む会の様子

古文書講座 - 市内にのこる身近な古文書 -

◆「江戸時代の農作物と肥料」

平成 28 年 2 月 17 日から 3 月 23 日にかけて各水曜日の 5 回にわたり、「江戸時代の農作物と肥料」と題して古文書講座を開催しました。

今回は、江戸時代の村々で作られていたさまざまな農作物を取り上げるとともに、そこで使われていた肥料はどのようなものを用いて栽培していたのか、古文書の解読を通じて現代との違いなどを明らかにしました。



古文書講座の様子

田畑で年に二種類の異なった作物を栽培する二毛作は、泉州においては春に米や木綿を植え付け、秋にそれらを収穫した後に菜種や麦などを栽培する形をとっていました。江戸時代、年貢として領主に納める米に対して、菜種や麦は農家の大きな現銀収入として位置づけられていました。

また、二毛作や木綿栽培によって、土地の養分が失われてしまうため多くの肥料が必要となりました。とくに泉州では江戸時代後半、干鰯（ほしか）や鰯粕（にしんかす）といった魚から油を取り除いた肥料を田地に使い、収穫量を安定させました。

講座では、古文書の解読から、不作が続き米のできが悪くなると、菜種や麦を売った代銀も年貢として領主に納めなくてはならないまでに追い詰められたことが明らかになりました。さらに困窮した人びとは、肥料を買うために年貢を待ってもらい、低い利子でお金を借りられるよう歎願書（たんがんしょ）を領主に提出したこともわかりました。

このように、当時の人びとの暮らしに焦点をあてた内容で古文書講座をおこなっています。興味のある方は、奮ってご参加ください。

古文書講座 50（通算 237 回～ 241 回）開催のお知らせ

テ ー マ：ぼっかんさんの江戸参府記

日 時：第 1 回 平成 28 年 6 月 8 日、第 2 回 6 月 15 日、第 3 回 6 月 22 日
第 4 回 6 月 29 日、第 5 回 7 月 6 日
いずれも水曜日午後 1 時 30 分～ 4 時

会 場：貝塚市民図書館 2 階視聴覚室

資 料 代：100 円

申 込：住所、氏名、電話番号を明記の上、はがき・Eメール・FAX、電話いずれかで、下記まで事前にお申込みください。

連 絡 先 〒 597-8585 貝塚市畠中 1 丁目 12 - 1（貝塚市民図書館 2 階）貝塚市郷土資料室
TEL 072 (433) 7205 / FAX 072 (433) 7107

E mail shiryoushitsu@city.kaizuka.lg.jp

貝塚市歴史展示館（ふるさと 知っとこ！館）に行ってみませんか。

貝塚市歴史展示館は、昭和 10（1935）年に建てられたユニチカ株式会社（旧大日本紡績株式会社）貝塚工場の事務所の建物を展示館として改修したもので、国の有形文化財（建造物）として登録されています。館内には 2 室の展示室があり、1 室の展示室は、昭和天皇の貝塚工場訪問のための応接室として増設されたもので、実際には訪問は中止となったのですが、内装や照明は当時のままの状態が残されています。



歴史展示館外観

今年春までNHKで放送されていた朝の連続テレビ小説「あさが来た」の阪神紡績のモデルは、広岡信五郎が初代社長を務めた大日本紡績の源流となる尼崎紡績です。

常設の展示内容としては、企画展展示スペース、写真パネル、展示スペース「大日本紡績株式会社貝塚工場の歴史」と、日紡貝塚の誕生、1964 年の東京オリンピックでの金メダルの獲得などをテーマにした「ニチボー貝塚バレーボールチームの軌跡」の 2 つをメインテーマに行っております。今年 8 月に開かれるリオデジャネイロオリンピックの出場を決めた全日本女子バレーボールチームの源ともいえる時代を、その当時の体育館の床板などを通して体感していただけます。

また、ユニチカ貝塚工場で実際使われていた豊田自動織機の展示、本市の姉妹都市であるカルバーシティ市の紹介もしています。



ニチボー貝塚と優勝記念樹



大松監督と東洋の魔女



東洋の魔女

企画展示会としまして、現在、7 月 31 日（日）までの間、「熊野街道沿いの史跡と道しるべ」展を開催しております。本展では、熊野街道にある道標を紹介しながら、史跡、丸山古墳、清水大師、吉祥園寺などをパネルにて紹介しています。

ぜひご来館ください。



展示の様子

開館時間	午前 10 時～午後 4 時（正午～午後 1 時は閉館）
休 館	毎火曜日・祝日（火曜日が祝日の場合は翌日も休館）・年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）
入 館 料	無料
交通のご案内	J R 阪和線「東貝塚」駅下車、北西へ徒歩 5 分または南海本線「貝塚」駅からは～もに～ばす（ピンクバス）「二中前」下車、東へ徒歩 5 分

文化財カレンダー

郷土資料展示室

◆ 6 月

8 日（水）古文書講座「ぼっかんさんの江戸参府記」

＜貝塚市民図書館 2 階視聴覚室＞

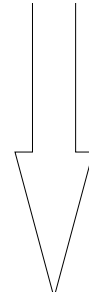
午後 1 時 30 分～4 時（7 月 6 日（水）まで毎週水曜日連続 5 回）

18 日（土）かいづか歴史文化セミナー「旧近義地区の史跡めぐり」

午後 1 時 30 分 南海本線二色浜駅集合

「貝塚市の
指定文化財」展
第 1 期

5/14（土）



7/24（日）

◆ 7 月

16 日（土）

}

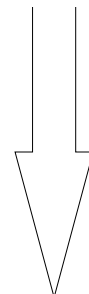
貝塚宮・感田神社太鼓台祭り

17 日（日）



「貝塚市の
指定文化財」展
第 2 期

7/30（土）



10/9（日）

◆ 8 月

14 日（日）三ツ松明土行念仏（チャンチャンヒキ）

14 日（日）・15 日（月）貝塚三夜音頭

14 日（日）～16 日（火）東盆踊り



11 月 20 日は「かいづか 家族の日」（11 月第 3 日曜日）です。

家族や家庭をとりまく地域の大切さについて理解を深め、子育てを応援する取り組みを進めていきます。文化財を通して地域の大切さを考えてもらえる企画を予定しています。

かいづか文化財だよりテンプス 59 号

平成 28 年 5 月 31 日発行

貝塚市教育委員会

〒 597-8585 貝塚市畠中 1 丁目 17-1

Tel (072) 433-7126 Fax (072) 433-7107

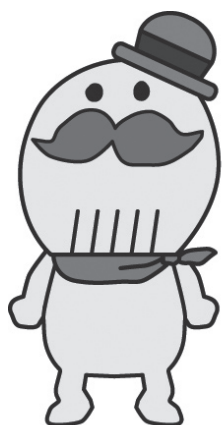
Email: shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp

印刷：(株)帯谷印刷所

※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。

年 3 回発行：各 1,000 部

印刷単価： 41.50 円



貝塚市イメージ
キャラクター

つげさん

貝塚市特産品「つげ櫛」
をモチーフとしたデザ
イン。
イベントごとが大好き。
普段はのんびり、でも
祭りには萌えます。

